

令和2年度 第2回 豊島区総合高齢社会対策推進協議会 資料



豊島区の総合高齢社会対策について

令和3年2月

豊島区 保健福祉部 総合高齢社会対策推進室

※ 令和3年度新規・拡充事業は、令和3年2月10日開会の豊島区議会第一回定例会の審議を経て決定されます。

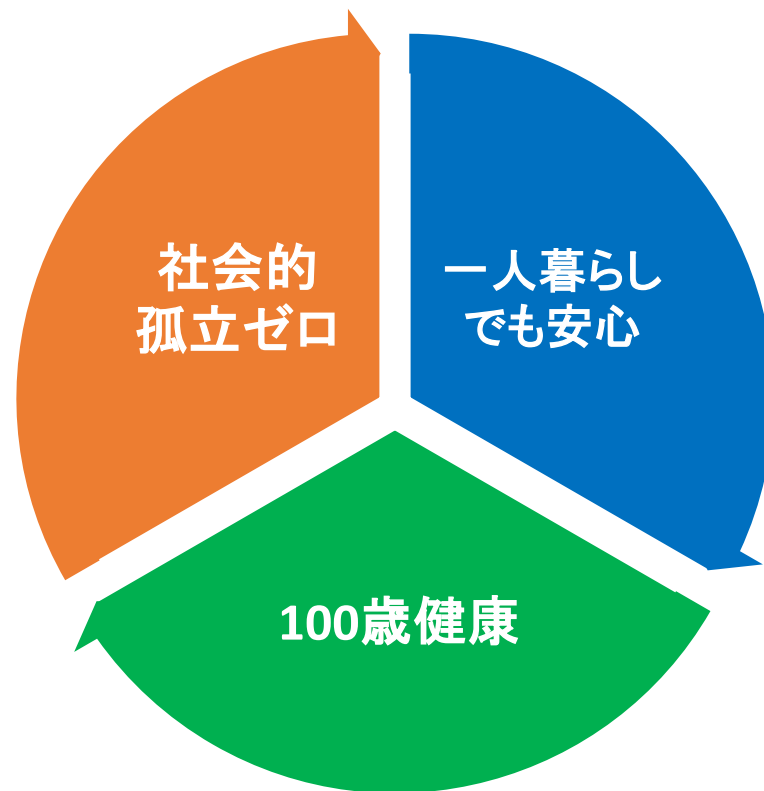
1 総合高齢社会対策の方向性

- 豊島区の75歳以上高齢者に占める一人暮らしの割合は**日本一**
- 一人暮らしにフォーカスした「**3本柱の総合対策**」で、**日本一の高齢者にやさしいまち**へ

高齢者人口に占める一人暮らしの割合 全国区市ランキング

75歳以上			65歳以上		
1位	豊島区	37.0%	1位	渋谷区	34.7%
2位	渋谷区	35.4%	2位	豊島区	33.8%
3位	杉並区	35.3%	3位	新宿区	33.4%
4位	新宿区	35.2%	4位	杉並区	32.8%
5位	千代田区	35.2%	5位	中野区	32.4%
	23区平均	29.3%		23区平均	27.0%
	全国平均	19.8%		全国平均	17.7%

【出典】平成27年国勢調査



目指すは、「誰も孤立させない、みんながいきいきと、健康で安心して暮らせるまち」

日本一の“高齢者にやさしいまち”へ！

2 前回推進協議会におけるご意見の対策への反映

前回推進協議会におけるご意見	対策への反映
<ul style="list-style-type: none">・自粛生活によりフレイルの人が増えることが心配である。・高齢になっても介護を必要としない高齢者を増やすことが必要である。	<ul style="list-style-type: none">・フレイル対策センターの機能を身近な地域の区民ひろばにも展開するとともに、区民ひろば等の感染防止対策を徹底し、安心して足を運んでもらえるようにします。・外出できない場合のために、「としまる体操」「健康チャレンジ講演会」等のYouTubeでの動画配信等を行います。
<ul style="list-style-type: none">・定期的にメール送信したり音声で呼び掛ける仕組みが有効である。・高齢者にスマートフォンやタブレット端末等を配付し、健康管理や災害対策等に活用するとよい。	<ul style="list-style-type: none">・令和2年9月から「高齢者呼びかけ事業」を開始し、まずは往復はがきで働き掛け、必要に応じて電話又は訪問をしていきます。・東京都・KDDIとの連携による「ヘルスケアアプリ実証実験」の中で、スマートフォンの活用可能性について検証していきます。
<ul style="list-style-type: none">・区民がジョギングや散歩を習慣づけて生活習慣病を予防するとよい。	<ul style="list-style-type: none">・「としま健康チャレンジ！事業」を充実するとともに、東京都・KDDIとの連携による「ヘルスケアアプリ実証実験」を通じ、日常生活の中の気軽な健康づくりをサポートしていきます。
<ul style="list-style-type: none">・高齢者が受身ではなく能動的に活動していくこと、自らがまちづくりに参加することが求められる。	<ul style="list-style-type: none">・地域活動、ボランティア活動を支援していくとともに、高齢者のまちづくりへの参画の機会を増やしていきます。
<ul style="list-style-type: none">・高齢者が集える場所が多くあるとよい。	<ul style="list-style-type: none">・高齢者サロン、認知症カフェ、おとな食堂等の高齢者の居場所、交流の場を引き続き積極的に増やしていきます。

- 75歳以上高齢者の皆さんに往復はがきを送付、気軽に返信・相談できる取り組みを推進
- 高齢者総合相談センター職員が出張相談・見守り強化

◆ 高齢者呼びかけ事業 拡充

75歳以上のすべての高齢者の皆さんに往復はがきを送付し、コロナ対策等の啓発を行うとともに、お困りごとを気軽に返信・相談できる取り組みを進めます。令和2年度の試行で大きな反響があったことから、令和3年度からは毎年1回実施します。



◆ 出張相談・見守り強化事業 新規

「高齢者呼びかけ事業」で相談・見守りが必要になった方などに対し、高齢者総合相談センター職員が、区民ひろばへの出張相談や高齢者への自宅訪問相談を行うなど、高齢者の見守り体制を強化します。

◆ あんしん位置情報サービス 拡充

徘徊行動がみられる高齢者にGPS端末を貸与し、家族等の検索を支援します。令和3年度からは、徘徊高齢者が発見された時に警備会社が現場に急行するサービスを開始します。

◆ 民間事業者との見守り協定

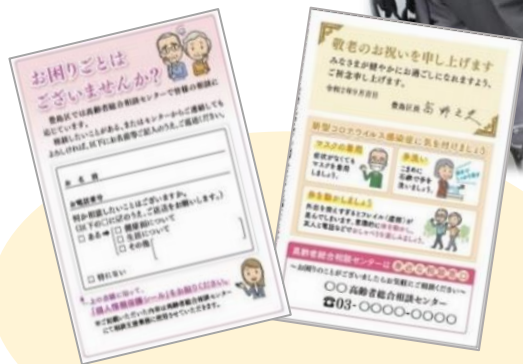
民間事業者の従業員に「認知症サポーター養成講座」等を受講していただくなどし、業務中に高齢者の異変に気付いた際に区や高齢者総合相談センター等へ連絡していただきます。

平成28年3月現在 1団体 ⇒ 令和3年1月現在 14団体

東京ヤクルト販売、東京ガスライフバル豊島、東京都水道局、東京都住宅供給公社、豊島区しんきん協議会、豊島郵便局、生活協同組合コープみらい、生活協同組合パルシステム東京、東京保健生活協同組合、東都生活協同組合、北東京生活クラブ生活協同組合、東京ガス株式会社北部支店、東京ガスSTコミュニティ株式会社東京ガスライフバル豊島、三井住友海上あいおい生命保険株式会社東京営業部【協定締結日順】



◀ 相談の様子



▲ 令和2年度送付はがき

令和2年9月 30,639人に発送 ⇒ 約4,600人から返信
令和3年1月 30,029人に発送 ⇒ 約2,800人から返信

4 社会的孤立ゼロ 誰一人取り残さないまちづくり

- 分野横断の支援で全国的にも注目されている「**くらし・しごと相談支援センター**」をさらに充実
- **8050問題、ひきこもり、複合的な課題**に対応していきます

拡充

◆ ひきこもり支援事業 **新規**

深刻な「8050問題」など、ひきこもり状態の方を支援するため、専門家や当事者等で構成する「(仮)ひきこもり支援協議会」を設置するなど、相談支援体制を強化します。

◆ **くらし・しごと相談支援センターの充実**

令和3年度は、コロナ禍で需要が急増している「住居確保給付金」の事務体制を強化するとともに、住宅に関する相談について部局間の連携を強化するなど、さらにワンストップの対応を進めます。

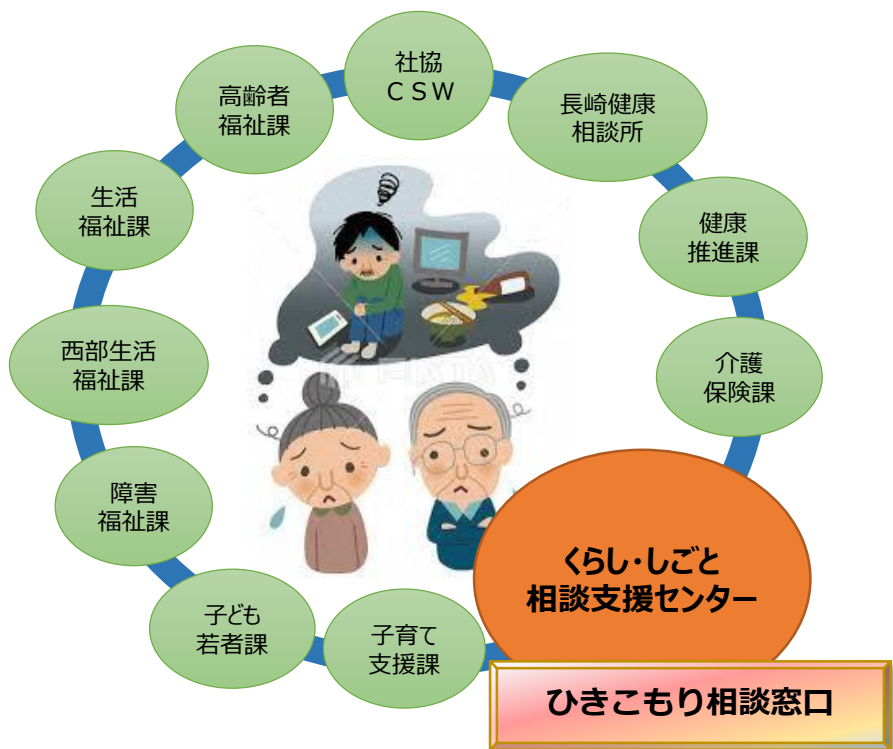
◆ **民生委員・児童委員の欠員ゼロへ**

「誰一人取り残さないまちづくり」の要となる民生委員・児童委員の欠員ゼロに向けて鋭意取り組みます。

令和元年12月現在 欠員**41名** ⇒ 令和3年1月現在 欠員**24名**

◆ **つながりの推進**

- 高齢者クラブの活動支援
- シルバー人材センターの活動支援
- 「としまる体操」等自主グループの活動支援
- 「高齢者元気あとおし事業」等によるボランティア活動支援



▲ 民生委員・児童委員の活動 (高齢者サロン)



▲ 高齢者クラブ

- フレイル対策センターの機能を身近な地域の区民ひろばにも展開
- 区民ひろば等の感染防止対策を徹底し、安心して足を運んでもらえるようにします

◆【元年度】フレイル対策センター開設

要介護状態一歩手前の「フレイル（虚弱）」を予防する拠点として、令和元年5月に「東池袋フレイル対策センター」を開設し、多くの皆さんに利用されています。

令和元年度来館者数 5,681人

全国初



◆【2～3年度】区民ひろばに展開

「運動機能分析装置」などのフレイル対策機器を22か所の区民ひろばに設置し、身近な地域でフレイル予防に取り組める環境を整備していきます。

全国初



▲東池袋フレイル対策センター

フレイル対策センターでは毎週水曜日の夕方に「おとな食堂」を開催。大変好評で、ほぼ毎回、用意した30食が完売しています。



▲おとな食堂



▲運動機能分析装置で下半身の筋力を測定している様子



▲輪になって「としまる体操」

◆ まちの相談室

リハビリテーション専門職・管理栄養士・保健師等が区民ひろばを巡回し、健康相談会を実施します。

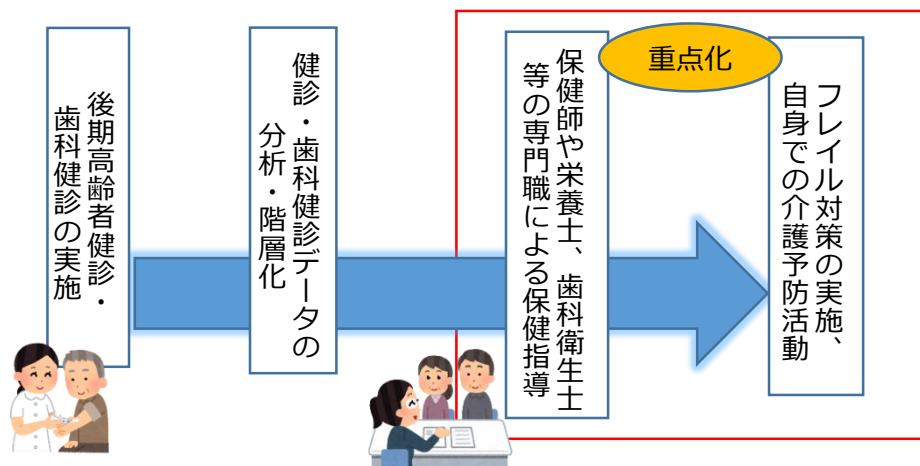
◆ フレイルチェック

東京大学高齢社会総合研究機構・飯島勝矢教授が開発した「フレイルチェック」をフレイル対策センターや区民ひろばで定期開催し、高齢者自らの「気づき」を促します。

- 健診データ等を分析し、リスクに応じた生活習慣病予防、フレイル予防を推進
- 東京都・KDDIとの連携により、個人データを活用した効果的な予防対策等を検証

◆ いきいき100歳健康づくり事業 新規

後期高齢者の健診データを分析し、低栄養者や糖尿病高リスク者、口腔機能低下者等への個別相談やアウトリーチなど、保健事業から介護予防事業までを一体的に実施します。



◆ 高齢者歯科健康診査事業 拡充

76・78・80・82・84歳の皆さんを対象に、2年に1度「口腔機能評価」を実施し、さらに歯科衛生士による追跡調査を行います。

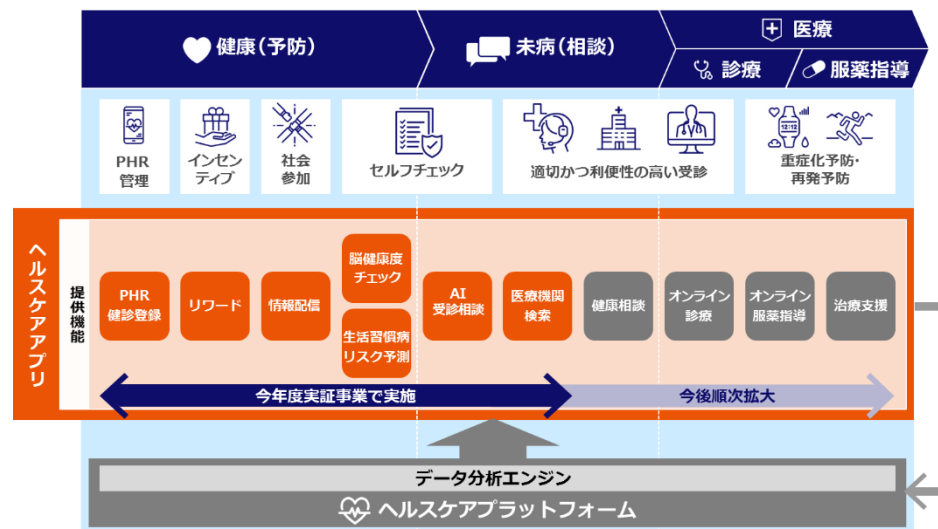
◆ 糖尿病性腎症重症化予防事業 拡充

特定健診のデータを分析し、糖尿病性腎症が疑われる方に尿検査及び保健指導を実施し、必要に応じて継続的な支援を行います。

◆ ヘルスケアアプリ実証実験

東京都・KDDIとの連携により進めているスマートフォンを活用した健康増進の実証実験の中で、個人の状況に合った効果的な予防対策等について検証していきます。

アプリ利用者数（令和3年1月24日現在） **5,198人**



7 一人暮らしでも安心 いざという時の安心

- 「夜間緊急受付」と「休日窓口」で24時間365日の相談体制構築
- いざという時の備えの充実で日々の安心をサポート

◆ 夜間緊急受付と休日窓口の開設

新規

これまで対応が困難であった夜間・休日の緊急対応に応じられるよう、高齢者の総合相談に関する「夜間緊急受付」及び「休日窓口」を開設するなど、24時間365日の相談体制を構築します。



◆ 救急医療情報キット配付事業

新規

本人の医療情報や緊急連絡先等を記載して冷蔵庫に保管できる「救急医療情報キット」を高齢者の皆さんに配付します。

◆ 高齢者住宅火災代理通報

拡充

火災時に代理通報する火災安全システムに、協力者を置かなければならない「消防直接型」に加え、令和3年度からは協力者が不要な「民間代理型」を追加します。

◆ 終活サポート事業

2月中旬（予定）
窓口開設

社会福祉協議会内に「終活あんしんセンター」を開設し、終活に関するさまざまな相談に応じるほか、区内葬祭事業者等と連携し、葬儀・遺品整理等に関する生前契約を支援します。



◆ 認知症サポーター養成講座

認知症を正しく理解し、認知症の方やそのご家族にやさしく対応できる「認知症サポーター」を積極的に養成しています。

平成27年3月現在 累計4,569名
⇒ 令和2年9月現在 累計13,709名

◆ 認知症カフェ

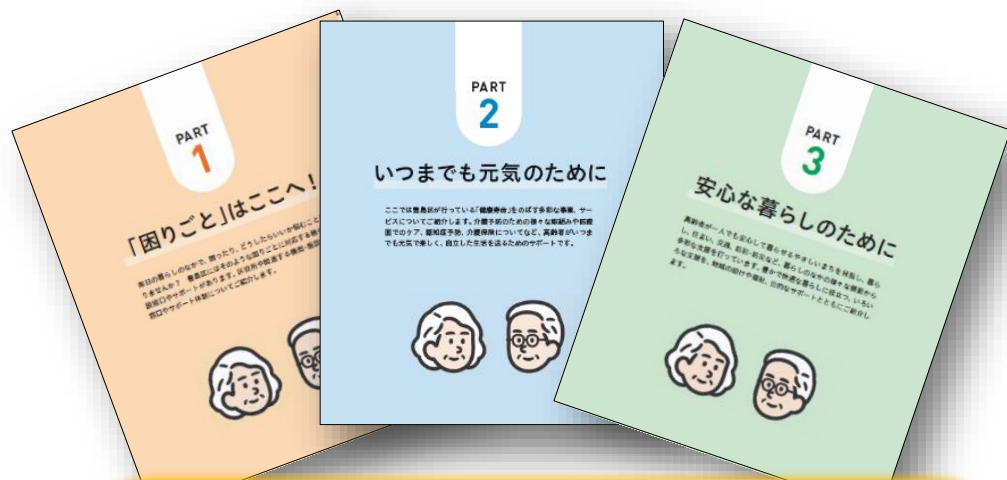
認知症の方とご家族、ご近所、専門職等の交流、情報交換の場として「認知症カフェ」の運営を支援しています。

平成28年3月現在 1か所 ⇒ 令和3年1月現在 18か所

- 高齢者向け冊子「シニア×としまぐらし」を発行、70歳以上高齢者の皆さんに全戸配布
- コロナ禍で情報が不足しがちな高齢者の皆さんに、積極的に情報をお届けします

◆ 「シニア×としまぐらし」発行・全戸配布

高齢者の福祉サービスを掲載し毎年発行していた「高齢者のてびき」を全面リニューアル。従来のサービス紹介に加え、フレイル、認知症、医療サポートから社会参加、防犯・防災まで幅広い情報を多角的に掲載し、「シニア×としまぐらし」として発行します。



70歳以上の全区民に郵送

< 目次 >

はじめに 変わりゆく豊島区 SDGs未来都市

PART1 区民の相談 ～「困りごと」はここへ！

様々なサポート / 豊島区役所 / いろいろな相談窓口 / 高齢者総合相談センター / 社会福祉協議会

PART2 予防と医療 ～いつまでも元気のために

フレイル / 社会参加 / 医療サポート / 感染症 / 認知症 / 介護保険

PART3 生活支援 ～安心な暮らしのために

暮らしのサポート / 住まい / 交通安全 / 防犯 / 防災 / 年金 / 生活支援 / 税金 / 終活

PART4 お役立ち

Q&A / 連絡先&マップ / さくいん

緊急時に役立つ としま便利帳

緊急連絡先 / もしもに備える情報メモ / もしものときの連絡先 / 災害 / 火事 / 犯罪